

平成18年度（第50回）
岩手県教育研究発表会発表資料

外国語

**中学校第2学年英語科における
書く力を高めるための研究**
- 「Gアップシート」の活用をとおして -

平成19年1月9日
長期研修生
所属校 盛岡市立北陵中学校
氏名 佐藤 亨

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	1
研究結果の分析と考察	2
1 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想	2
(1) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本的な考え方	2
(2) 書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した学習指導の在り方	4
(3) 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導について	5
(4) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想図	6
2 書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した手だての試案	7
(1) 手だての試案作成の留意点	7
(2) 手だての試案	8
(3) 検証計画の概要	8
3 授業実践及び実践結果の分析と考察	10
(1) 書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要	10
(2) 実践結果の分析と考察	13
4 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための研究のまとめ	17
(1) 成果	17
(2) 課題	17
研究のまとめと今後の課題	18
1 研究のまとめ	18
2 今後の課題	18

<おわりに>

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

中学校学習指導要領において「書くこと」の領域では「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる」ということを目標としている。また「書くこと」の領域における言語活動で指導すべき内容としては、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」などが求められており、教科書などから提供される話題以外にも、自分の考えを組み立て、それをまとまりのある文章で表現できる力を育てることが大切である。

しかし、生徒の実態を見ると、簡単な表現を用いて自己紹介文などを英語で書いたり、与えられた日本語を英語で書いたりすることはできるが、事実関係をもとに自分の考えや気持ちなどを英語で書いて表現する力は十分に身に付いているとはいえない状況である。これは学年や単元で身に付けるべき指導目標を明確にしないまま指導していることと、ある内容について英語で詳しく説明したり、自分の考えや気持ちなどを述べたりすることができる指導の手だてが不足していたことに原因があると考えられる。

このような状況を改善するためには、評価規準を基に、授業の目標をより明確にし、学習状況に応じた指導を展開していくことと、授業で学習した言語材料を用いて、あるテーマにそって自分の考えを基にまとまりのある英文を書くような自己表現活動を行うことが必要である。このためには、授業における評価規準に対応した問題を盛り込んだシート(Gアップシート)の活用が有効である。

そこで、この研究は、授業において「Gアップシート」を活用することをとおして、書く力を高めるための指導の在り方を明らかにし、中学校第2学年英語科の「書くこと」領域の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

中学校英語科の学習において、次のように「Gアップシート」を活用した学習指導を行えば、生徒の書く力が高まるであろう。

- 1 自己表現活動において、自分の考えや気持ちを基に、まとまりのある英文を書かせる指導を行い、生徒の実現状況を把握するとともに、指導に役立てる。
- 2 自分の経験や身のまわりにある情報を、適切な言語材料を用いてまとまりのある英文を書かせる。

研究の内容と方法

1 研究内容と方法

- (1) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想の立案(文献法)
中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本的な考え方をまとめ、書く力について明らかにするとともに、仮説に基づき、書く力を高めるための基本構想を立案する。
- (2) 基本構想に基づく手だての試案の作成(文献法)
基本構想に基づき、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案を作成する。
- (3) 授業実践及び実践結果の分析と考察(授業実践、テスト法)
「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習活動について、手だての試案に基づき、単元「Let's Read1~Multi Plus2」の授業実践を行う。また、検証計画に基づいて、まとまりのある英文を書く力の育成状況について分析と考察を行う。
- (4) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づいて、中学校第2学年英語科における書く力を高めるための研究のまとめをする。

2 授業実践の対象

盛岡市立北陵中学校 第2学年 2学級 (男子40名 女子34名 計74名)

研究結果の分析と考察

1 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想

(1) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本的な考え方

ア 書く力について

中学校学習指導要領における「書くこと」の領域では「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる」と目標が示されている。これは3年間を通じての目標であり、学年の学習段階をふまえて言語の使用場面や働きを広げながら、その力を高めていくことが求められている。また言語活動で指導すべき内容の一つとして、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」が示されており、与えられた文章を和文英訳するだけでなく、事実関係に基づいて自分の考えや気持ちを英語で自己表現できる力が重視されている。

各学年の言語活動については配慮事項が【表1】のように示されているが、第2学年においては第1学年で習得した言語材料を含め、幅を広げて自分の考えや気持ちを表現できる力が求められている。これは単に和文英訳や自己紹介文を英語で書いて表現するだけでなく、あるトピックに基づいて自分の気持ちや意見を基に、まとまりのある英文を書く力であると考える。そこで、本研究では書く力を「まとまりのある英文を書く力」ととらえて進めていくことにする。

【表1】中学校学習指導要領(英語) 学習段階を考慮した指導上の配慮事項

学 年	言語活動の配慮事項
第1学年	英語を初めて学習することに配慮し、コミュニケーションに対する積極的な態度の育成を重視するとともに、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りのできごとなどの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような題材を取り上げること。
第2学年	第1学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年に加え、特に、事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容などの中からコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。
第3学年	第2学年の学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際、第2学年に加え、特に、様々な考えや意見などからコミュニケーションが図れるような話題を取り上げること。

イ 書く力を高めることの意義について

英語で自分の気持ちや意見を述べる時には、自分が今まで経験したことや聞いたり見たりした情報をもとに、思ったことや感じたことを整理して他者に伝える力が求められる。

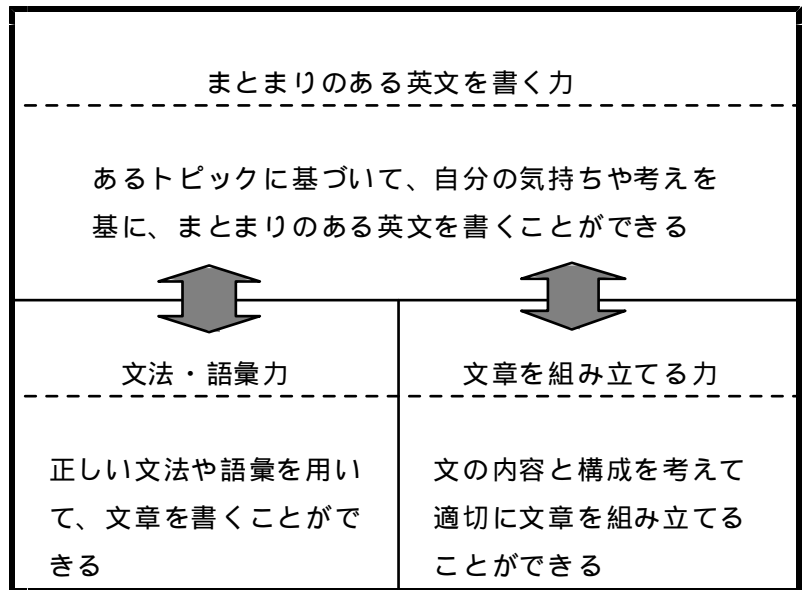
田中(2005)はこのような力を自己表現力としてとらえ、自分の事柄に関するメッセージを自分で作りだし、文字や話しことばで表現する言語活動が英語の授業をよりよくしていく鍵であると述べている。また、自己表現活動は自分の力で伝える内容を考えることにより、自分が使った単語の定義を促し、将来どんな場面でも応用のきく真の英語力を育てることになるとしている。また、言語材料の定着のための文法ドリルは、自分に馴染みのない内容を練習することが多いため、自分とのかかわりが薄くなってしまいうことも指摘している。

まとまりのある英文を書く活動も自己表現活動の一つである。自分の経験や身のまわりにある情報を基に、自分の気持ちや考えを英語で書いて表現することで、言語材料と自分との

かかわりが深くなり、学習事項の定着を促すことから意義があると考えられる。

また、田中は自己表現活動には自分とのかかわりだけでなく、伝える人とのかかわりがあると述べている。つまり、自分の考えや気持ちを書くだけでなく他人に伝えたい文を書く活動ともいえる。伝える人とのかかわりがあるならば、正しい文法や語彙を用いて相手にわかりやすく文を組み立て、書くことが大切

である。本研究では、自分の経験や身のまわりの情報について自己表現活動として書かせることで、【図1】に示した「文法・語彙力」と「文章を組み立てる力」の定着を図り、「まとまりのある英文を書く力」を高めることを最終目標とする。



【図1】本研究における英語科の書く力のとらえ方

【図1】に示した「文法・語彙力」と「文章を組み立てる力」の定着を図り、「まとまりのある英文を書く力」を高めることを最終目標とする。

ウ 書く力を高めるための学習指導について

これまでの指導を振り返ると、書く力を高めるための指導の工夫として、単語や基本文、重要表現などを繰り返し書かせて定着を図ってきた。単元テストや小テストにより実現状況をみると与えられた日本語を英語で書く力は身に付いている。しかし、あるトピックに基づいて、自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で書くとなると、その力は十分に高まっていない。授業では、新しい言語材料を導入した際、パンプラクティスや教科書の音読、コミュニケーション活動などをとおして理解を深め、まとめとして書く力を高めることを目的に自分自身の立場に置き換えた自己表現活動をする事が多かった。しかし、授業で学習した基本文などを、その時間内で自分の

ことに置きかえて英文を書くことはできて、既習の言語材料なども用いて、あるトピックに基づいてまとまりのある英文を書くことは生徒にとって困難さを伴うことが多い。このことは、【表2】で示した平成17年度の中学校第2学年の統一学力テストにも出題されたような、3連文の問題に対する正答率の低さからも伺える。

【表2】あるトピックに基づいたまとまりのある英文を書く問題

問 題		正答率
H17年度 統一学力 テスト (中2英語)	英語の授業で、自分の好きなもの(スポーツ・食べ物など)や人について紹介することになりました。好きなものや人を1つ(1人)だけ取り上げ、次の指示に従って英語で書きなさい。 ・最初の文は、I likeで書き始めること。 ・取り上げたものや人について、3文以上で書くこと。	32%

この問題の解答状況をみると、ほとんどの生徒が好きなものや人については動詞の like を用いて文を書くことができるが、その文に説明を加えたり、さらに一言付け加えたりする経験が不足しているために、3連文を完成することができない生徒が多い。そこで一文レベルの文章を書くことができる力だけではなく、【図1】で述べたような書く力を高めていく必要があると考えられる。

佐野（2005）は授業で扱った言語材料の定着を目指し、そこに焦点化した練習や言語活動を行っても、短期的な記憶にしか残らないと述べている。また指導の工夫として、生徒にとって身近で興味深い話題を用いて文を書かせ、スピーチにして発表させるような自己表現活動をとおり、言語材料の定着を図ることが効果的であることを指摘している。

まとまりのある英文を書く時には、自分の書きたいと思う内容に即した様々な言語材料が必要である。しかし、教科書の単元を順に追って言語材料の定着を図り、文を書く力が高まったとしても、それが「まとまりのある英文を書く力」につながるとは限らない。

このことから「まとまりのある英文を書く力」を高めるためには、意図的に3～5連文を書かせる活動を学習指導に盛り込んでいくことが必要である。まとまりのある英文を書く活動では、教科書の単元にそった言語材料だけではなく、多くの言語材料の知識が求められる。そこで、トピックを学校や生徒の日常生活に関することに設定し、自分の経験や身のまわりの情報を表現内容に取り入れることで「文法・語彙力」の定着が図られる。また、自分で作り出した文をスピーチとして発表することを学習活動の最後に取り入れることにより、どのように表現すれば相手にわかりやすく伝えることができるかということを生徒に考えさせながら英文を書かせる。このことで「文章を組み立てる力」の定着が図られる。そして、このような自己表現活動を繰り返すことが、「まとまりのある英文を書く力」を高める学習指導につながると考える。

(2) 書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した学習指導の在り方

ア 「Gアップシート」とは

「Gアップシート」とは、本県の学力向上に資するよう内容を検討した評価規準（「いわてスタンダード」）に対応した学習シートである。

「いわてスタンダード」とは、学習指導要領及び国立教育政策研究所の評価規準を基に、本県の生徒の実態をふまえて、英語科において生徒に身に付けさせたい「中核となる力」を明確に示したものである。

本研究における書く力と「中核となる力」の関連は【表3】のとおりである。ただし、「文法・語彙力」については今回の授業実践に関連する内容に限定した。

【表3】本研究における書く力と「中核となる力」の関連

書く力	中核となる力
文章を組み立てる力	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の文法事項や表現を用いて、正しい英文を書くことができる ・接続詞を効果的に用いるなどして、自分の考えを筋道を立てて書くことができる ・与えられたトピックについて、事実を基に、自分の意見や感想、願いなどを付け加えて書くことができる ・（夏休みの思い出、将来の夢などの）身近なできごとや話題について、伝える内容を整理し、必要な情報を入れて書くことができる
文法・語彙力	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の語順についての知識がある ・be動詞の過去形について理解し、正しく使うことができる ・いろいろな過去表現について理解し、正しく使うことができる ・いろいろな未来表現について理解し、正しく使うことができる ・不定詞を用いた基本的な表現について理解し、正しく使うことができる ・既習の文法知識を活用して、書かれた内容を正しく読み取ることができる ・授業で学習したさまざまな基本的な文型や表現について理解し、正しく使うことができる ・言語活動に必要な語句や表現について理解している

また、「Gアップシート」は、生徒の学習を直接支援するものであり、次のようなことをねらいとしている。

- ・シート問題に取り組むことで、各自の学習の理解や定着の状況が把握できる。
- ・シート問題に取り組むことで、各自の学習課題が把握できる。
- ・シート問題に取り組むことで、補充的な学習や発展的な学習ができる。

英語科のシートは1年を4分割した「クールA～D」で構成されている。各クールにおいては、教科書(の各ユニット等)で学習する言語材料などに関連付けられた具体目標が設定されており、各シートはその目標を達成させるための準備、練習として位置付くように作成されている。

イ 書く力を高めるための「Gアップシート」の意義

中学校英語科における指導の課題として、「書くこと」の指導の充実があげられている。まとまりのある英文を書くことも大きな課題の一つである。教科書の単元を順に追ってワークブックなどで新出の言語材料の定着を図るだけでは、自分の考えや気持ちを表現できる力に結びつきにくい。そのような問題点を解決するためには、学年や単元で身に付けたい力を明確して指導することや、生徒自身に学習の実現状況の振り返りをさせる手だてを工夫することも必要である。そこで通常の授業の中で、「いわてスタンダード」における中核となる力を明確にしながら、「Gアップシート」の評価問題を活用する。生徒に書かせたいトピック関わる言語材料を扱った評価問題を学習活動に取り入れ、意図的にまとまりのある英文を書く活動につなげていくことにより、書く力を高めていきたいと考える。

(3) 「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導について

ア 言語材料の定着度の確認

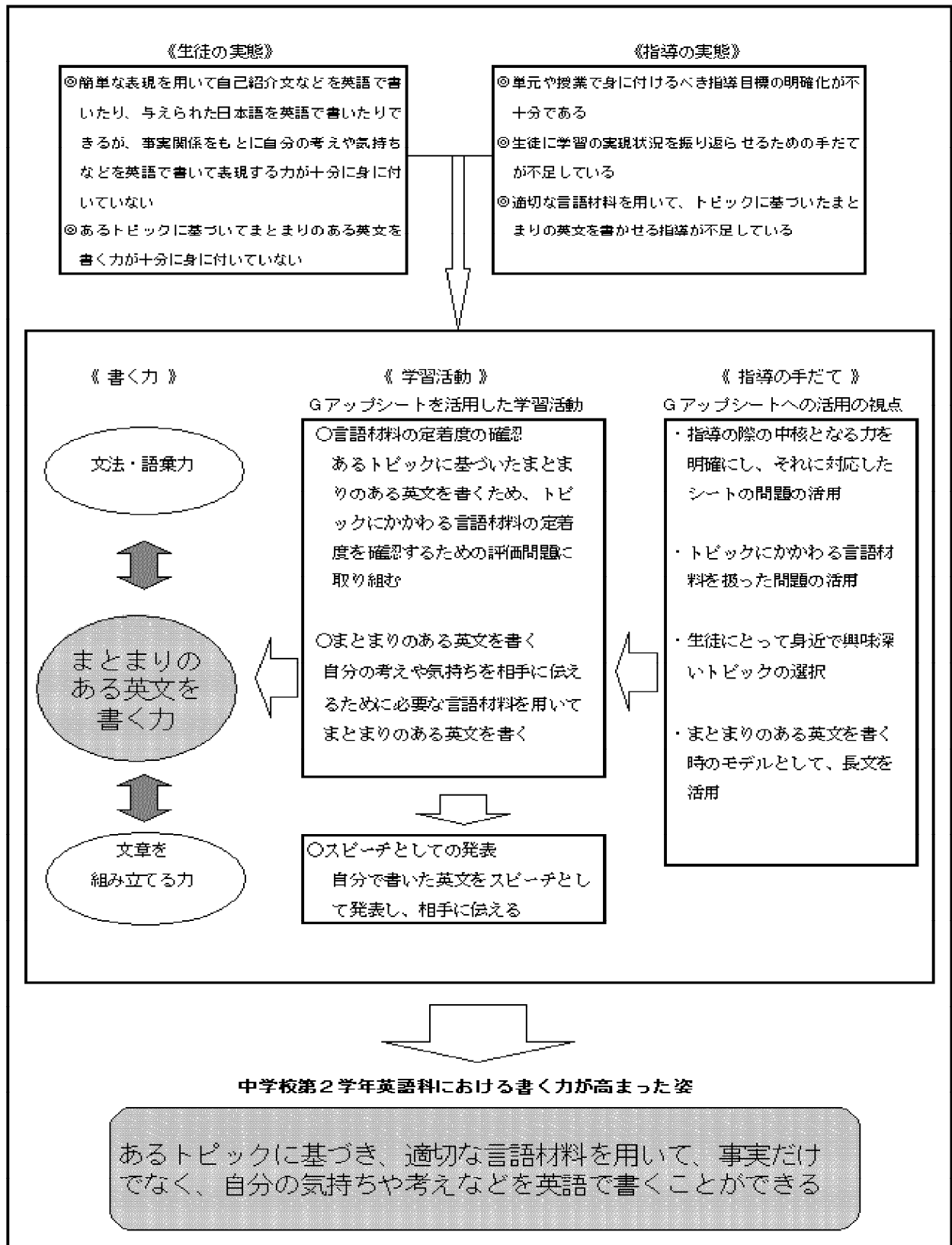
生徒に書かせたいトピックに関わる言語材料の定着度を確認するために「Gアップシート」を活用する。本研究においては、主に授業の導入の場面において、評価問題に取り組みせる。

イ まとまりのある英文を書く

生徒にとって身近で興味深い話題をトピックとして取り上げた「Gアップシート」を活用し、自分の考えや気持ちを基にまとまりのある英文を書く活動を行う。

(4) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想図

これまでに述べてきたことを基に、中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想図を【図2】のように作成した。



【図2】中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想図

2 書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した手だての試案

(1) 手だての試案作成の留意点

「Gアップシート」を活用した手だての試案の作成に際し、これまでの指導上の課題などから留意すべき点を整理し、次のようにまとめた。

ア 自分とのかかわりが深くなるトピックの設定

「Gアップシート」を活用した自己表現活動として、まとまりのある英文を書く活動を行う。そのトピックとして生徒に身近で興味深い話題を選択する。その活動の中で、授業で学習した言語材料を使わせ、自分の気持ちや考えを書かせることで定着を図る。

イ トピックにかかわる言語材料の定着度の確認

トピックに基づいてまとまりのある英文を書かせる前に、「Gアップシート」を活用して既習事項を中心とした言語材料の定着度を確認する。内容に関しては、生徒がトピックに基づいて英文を書く時に使うことが予想される言語材料を扱った問題を活用する。

ウ まとまりのある英文を書く時のモデルとなるような文の提示

「Gアップシート」の中にある、トピックにかかわる文をモデルとして活用する。生徒には基本的な文章の組み立て方としてとらえさせ、まとまりのある英文を書く時の文の構成に役立たせる。

エ 自己表現活動について

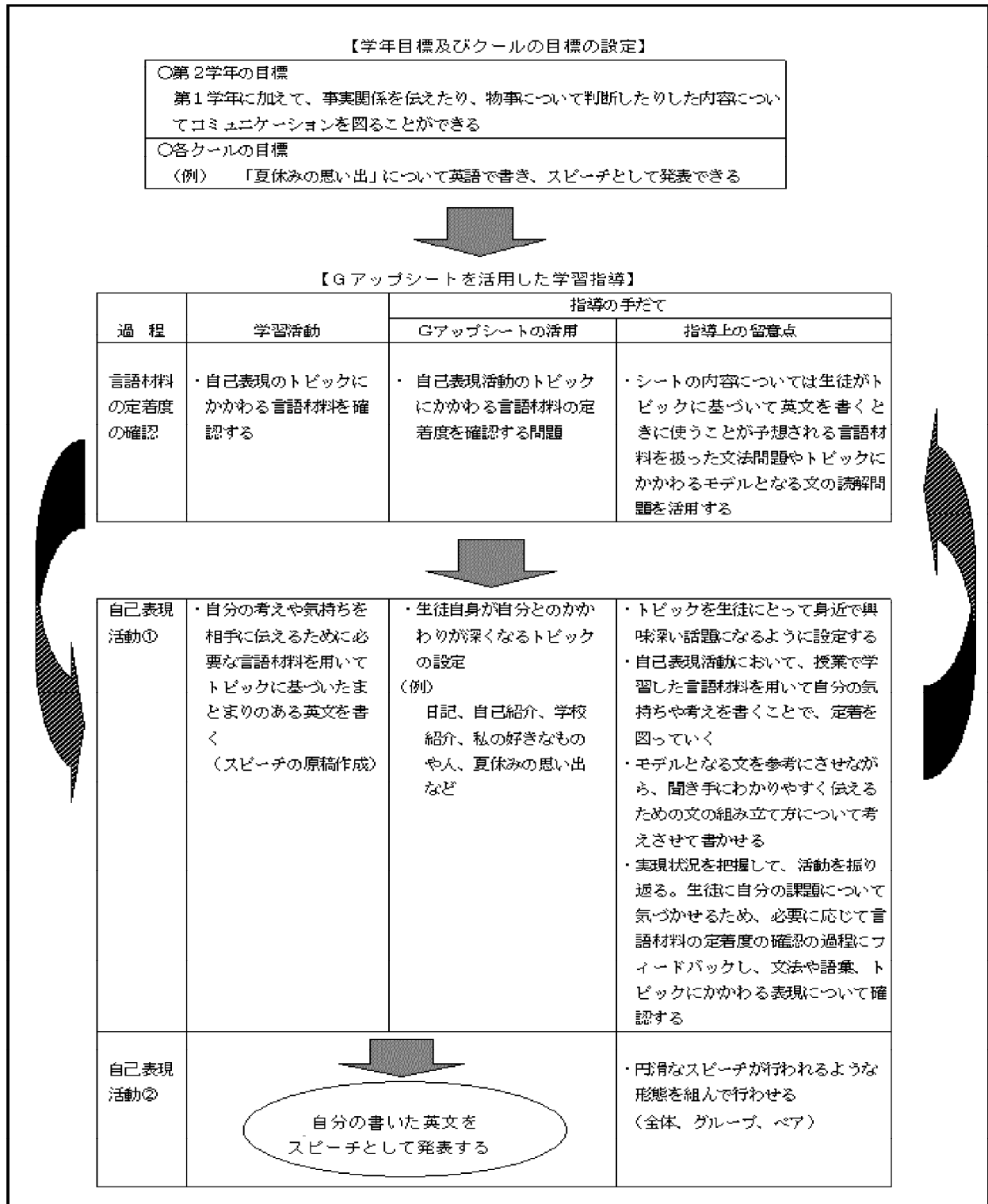
自己表現活動は、トピックに基づいて、自分の考えや気持ちを適切な言語材料を用いて書くことをねらいとして行う。そしてただ書かせるだけではなく、スピーチとして発表することを学習活動の最後に取り入れることにより、どのように伝えれば相手は理解しやすいのか、生徒に考えさせながら文を書くように促す。

オ 実現状況の把握

まとまりのある英文を書かせた際に、様々なレベルでの生徒のつまづきが予想される。そこで生徒の実現状況を把握するとともに、自分にとっての課題は何であるか気づかせるため、必要に応じて言語材料の定着度の確認の過程にフィードバックして、文法や語彙、トピックにかかわる表現について確認する。

(2) 手だての試案

基本構想及び前頁の留意点を基に、「Gアップシート」を活用した手だての試案を【図3】のように作成した。



【図3】書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した手だての試案

(3) 検証計画の概要

授業実践をとおして手だての試案の有効性をみるために、次のような検証計画を作成し、検証を進めることとする。

中学校第2学年英語科における書く力の育成状況にかかわって、本研究における「まとまりのある英文を書く力」についてテスト法による調査問題を作成し、事前と事後に実施してその結果を比較する。その検証計画の概要は、次の【表4】に示すとおりである。また、事前・事後テストには平成16年度と17年度の統一学力テストの問題を使い、記述内容については、二つの観点に分けて作成した【表5】の採点規定に基づき、質的変容の分析と考察を行うとともに、16年度、17年度の本県の結果とも比較する。

【表4】検証計画

検証計画	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
書く力の育成状況	まとまりのある英文を書く力	・テスト法により、事前・事後に実施する	・作成した観点ごとの採点規定に基づいて比較、分析をするとともに、t検定（平均の差の検定）を用いて分析する ・平成16、17年度の統一学力テストの結果と比較する

【表5】まとまりのある英文を書く力についての観点ごとの採点規定

点数	文の内容と構成（文章を組み立てる力）	文法や語彙（文法・語彙力）
5	<ul style="list-style-type: none"> トピックや条件に即した文が3文以上あり、自分の経験や事実に基づいて、詳しい説明やその時の自分の気持ちや考えなどが書かれている 論の展開に適切な接続詞（because, and, so など）を用いるなどの工夫がみられ、流れが自然である 	<ul style="list-style-type: none"> どの文にも中学校既習の語彙や文法を適切に用いて英語で文を書くことができ、誤りが少ない 動詞の変化や名詞の複数形、形容詞なども柔軟に使いこなし、文を適切に書いている 文のバリエーションが豊富であり、既習の表現を柔軟に使いこなし、文を書くことができる
4	<ul style="list-style-type: none"> トピックや条件に即した文が3文以上あり、自分の経験や事実に基づいて、簡単な説明やその時の自分の気持ちなどが書かれている 論の展開に工夫しようとしているものの、接続詞の使い方や文の流れにやや不自然さがみられる 	<ul style="list-style-type: none"> どの文にも中学校既習の文法を適切に用いて英語で文を書くことができる 動詞の変化や名詞の複数形、形容詞などの使い方を理解しているが、語彙のスペリングなどに誤りがややみられる
3	<ul style="list-style-type: none"> トピックや条件に即した文が2文以上書かれているが事実を述べる文が多く、その説明や自分の気持ちを述べた文は少ない 論の展開は意識されておらず、箇条書きになっている <p>※例 「私は野球が好きです」→「私は英語が好きです」→「私は英語を勉強します」のような流れの内容で書かれてある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校既習の文法や語彙を用いて、文を書くことが概ねできる。しかし動詞の語形変化や冠詞の使い方などに誤りがみられる。語彙のスペリングの誤りも時々みられる <p>※例 I <u>play</u> baseball yesterday. （私は昨日、野球をしました）</p> <p>Our school is <u>a</u> big. （私たちの学校は大きいです）</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 1文だけトピックや条件に即した文が書かれている 文は2文程度書かれているが、ややトピックや条件に即さない文が含まれる 論の展開は意識されておらず、文1つ1つが独立しており、流れが不自然である <p>※例 「私の学校は大きいです」→「私は野球が好きです」と続くような論の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校既習の文法や語彙を用いて文を書こうとしているが定着度は低い。語彙、文法にも誤りがみられる 文に誤りがあるものの、内容全体をみるとどんなことを書きたかったのかわかる <p>※例 Our school is <u>enjoy</u>. （私たちの学校は楽しいです）</p> <p>Our school is <u>many</u> club. （私たちの学校には多くのクラブがある）</p> 代名詞を用いて前の文の名詞を説明する力がやや不足している <p>※例 I like <u>baseball</u>. It's very interesting. のように野球に説明を加えるような力</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> 文は書かれているが、トピックに即さない文が書かれている トピックや条件に即して文を書くことができない。（何も書かれていない） 文が書かれているが、内容を読み取ることが困難である 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校既習の語彙や文法を用いて、単語や文を書くことが困難な状況にあるため、誤りがかなり多い 主語＋動詞＋目的語（補語）のような英語の基本的な文構造が理解できていない

3 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要

ア 授業実践の計画

(ア) 対象 盛岡市立北陵中学校 第2学年 2学級(男子40名 女子34名 計74名)

(イ) 授業実践期間 平成18年9月4日～9月22日

(ウ) 指導計画 単元「Let's Read 1～Multi Plus 2」・・・7時間(【資料1】を参照)

【資料1】単元「Let's Read 1～Multi Plus 2」の指導計画(7時間扱い)

時	学習目標	学習活動	Gアップシートの活用
1	Let's Read 1 ① ○物語を読んで場面展開を読み取ることができる ○「昨日の日記」というトピックに基づき、自分について英語で書いて表現できる	・本文の音読と内容理解 32ページの内容について音読し、あらすじを理解する ・言語材料の定着度の確認 自己表現のトピックに関わる評価問題に取り組む ・自己表現活動 トピックに基づき、自分について英語で書いて表現する	・自己表現活動のトピックに関わる言語材料の定着度の確認をする ・自己表現活動におけるトピックを設定し、まとまりのある英文を書く
2	Let's Read 1 ② ○物語を読んで場面展開を読み取ることができる ○「昨日の日記」というトピックに基づき、自分について書いた英文をスピーチとして発表できる	・本文の音読と内容理解 33ページの内容について音読し、あらすじを理解する ・自己表現活動 前時に書いた英文をスピーチとして発表する	
3	Let's Read 1 ③ ○物語を読んで場面展開を読み取ることができる ○「日記(週末の出来事)」というトピックに基づき自分について英語で書いて表現できる	・本文音読と内容理解 34ページの内容について音読し、あらすじを理解する 言語材料の定着度の確認 自己表現のトピックに関わる評価問題に取り組む ・自己表現活動 トピックに基づき、自分について英語で書いて表現する	・自己表現活動のトピックに関わる言語材料の定着度の確認をする ・自己表現活動におけるトピックを設定し、まとまりのある英文を書く
4	Let's Read 1 ④ ○物語を読んで場面展開を読み取ることができる ○「日記(週末の出来事)」というトピックに基づき自分について書いた英文をスピーチとして発表できる	・本文音読と内容理解 35ページの内容について音読し、あらすじを理解する ・自己表現活動 前時に書いた英文をスピーチとして発表する	
5	Let's Read 1 ⑤ ○物語の登場人物になりきり、感情を込めて英語劇を発表できる	・7人の登場人物とナレーターの役割をグループの中で分担しあい音読練習に取り組む ・英語劇を発表する	
1	Multi Plus 2 ① ○「夏休みの思い出」というトピックに基づいて、自分について英語で書いて表現できる	・言語材料の定着度の確認 夏休みの話題に関わる評価問題に取り組む ・教科書のモデルに触れる 教科書のスモールステップに触れ、情報を整理する ・自己表現活動 トピックに基づき、自分について英語で書いて表現する	・自己表現活動のトピックに関わる言語材料の定着度の確認をする ・自己表現活動におけるトピックを設定し、まとまりのある英文を書く
2	Multi Plus 2 ② ○「夏休みの思い出」について書いた英文をスピーチとして発表できる	・自己表現活動 前時に書いた英文をスピーチとして発表する ・スピーチした文を清書して、教室に掲示する (文化祭の教科書展示作品)	

イ 授業実践の概要

手だての試案に基づいて作成した指導展開案(【補助資料2 - 】～【補助資料2 - 】を参照)にて、授業実践を行った。

11～12頁【資料2 - 】～【資料2 - 】は、書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた授業実践における2回の自己表現活動の概要である。

【資料2 - 】授業実践の概要 Gアップシートを活用した自己表現活動「日記(昨日の日記)」

学習指導目標 ・「昨日の日記」というトピックに基づき、自分について英語で書いて表現できる(1/7時間)
 ・「昨日の日記」というトピックに基づき、自分について書いた英文をスピーチとして発表できる(2/7時間)


過程 Gアップシートを活用した自己表現活動
 生徒の思考・反応 教師の働きかけ

言語材料の定着度の確認

Gアップシートで日記を書くために必要と考えられる言語材料の定着度を確認

なるほど。英語の日記の書き方がわかった。

happyを使ってうれしい気持ちを表すんだね。



動詞の過去形は日記を書く時使いますよ。

自分がしたことだけでなく、その時の気持ちを表す文にも注意して取り組みましょう。

トピック「昨日の日記」に基づいた「書くこと」の自己表現活動

自己表現活動

日記を書く時の表現がシートにあるから参考になった。

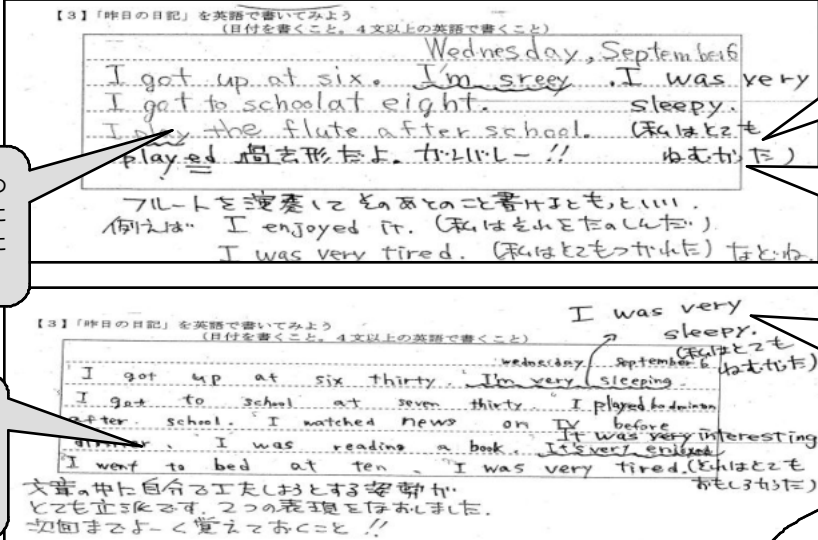
「おもしろい」はenjoyではなく、interestingを使うんだね。

今日は1日の流れにそって日記を書きます。

シートのモデル文も参考になりますよ。

自分の行動だけではなく、その時の気持ちを表す表現も書いてみよう。

スピーチの前にもう一度、日記を書く時の表現を確かめてみましょう。



自己表現活動の振り返り

気持ちを表す文や文の日記を書く時の表現がわかってきた。


自己表現活動の課題

- ① モデル文のアルビ
- ② 感情などを表す文
- ③ want to ...

I was tired. (happy sad)

want to ... (-たために)

気持ちを表す表現には tired happy sadなどが使われます。



トピック「昨日の日記」に基づいた英語でのペアによるスピーチ

自己表現活動

ちゃんと内容が伝わればいいな。

スピーチが終わったらシートを交換し、友達にコメントしてあげましょう。



【活動の様子】

- ・「言語材料の定着度の確認」の場面では、ほとんどの生徒が過去形の動詞の意味について理解できていた。しかし動詞を過去形に変化させる問題や「to + 動詞の原形」の定着度は十分でなかったため、答え合わせの際に詳しく説明した
- ・「自己表現活動」では日記を書かせたが、ほとんどの生徒はシート内の表現を参考にしながら日記を書くことができた。また書くことが困難な生徒には机間指導をしながらシート内で使えるような表現を説明し、少しでも多くの文を書かせた
- ・生徒の日記を添削した結果、「私は～しました」のように事実だけを述べる日記が多く、気持ちを表す文は少なかった。また、様々な文法を使うような文のバリエーションも少なく、モデル文と同じような日記が目立った。そこで、振り返りの場面で気持ちを表す時に使う形容詞や「to + 動詞の原形」の「～するために」や「～したい」の文法にふれ、日記をもう一度見直させた
- ・スピーチは男女ペアで行い、お互いの日記を聞いての感想をGアップシートに書かせて、次回に役立てさせた

【資料2-】授業実践の概要 Gアップシートを活用した自己表現活動「日記（週末の出来事）」

学習指導目標 ・「日記（週末の出来事）」というトピックに基づき、自分について英語で書いて表現できる（3/7時間）
 ・「日記（週末の出来事）」というトピックに基づき、書いた英文をスピーチとして発表できる（4/7時間）

過程 Gアップシートを活用した自己表現活動

生徒の思考・反応 教師の働きかけ

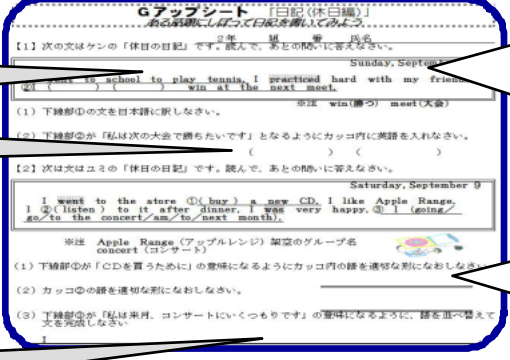
言語材料の定着度の確認

Gアップシートで日記を書くために必要と考えられる言語材料の定着度の確認

私、今日は部活のこと書くからこの表現が使えるよ。

want to~, 「~したい」は今日の日記でアレンジできそう。

「~するつもり」がbe going toだ。思い出したぞ、今日の日記で使えるな。



シート内の部活動の話題にある表現は今日たくさんの人が使えるですよ。

「to + 動詞の原形」がたくさん含まれてますね。日記でアレンジできそうですね。

自己表現活動 「日記（週末の出来事）」に基づいた「書くこと」の自己表現活動

自己表現活動

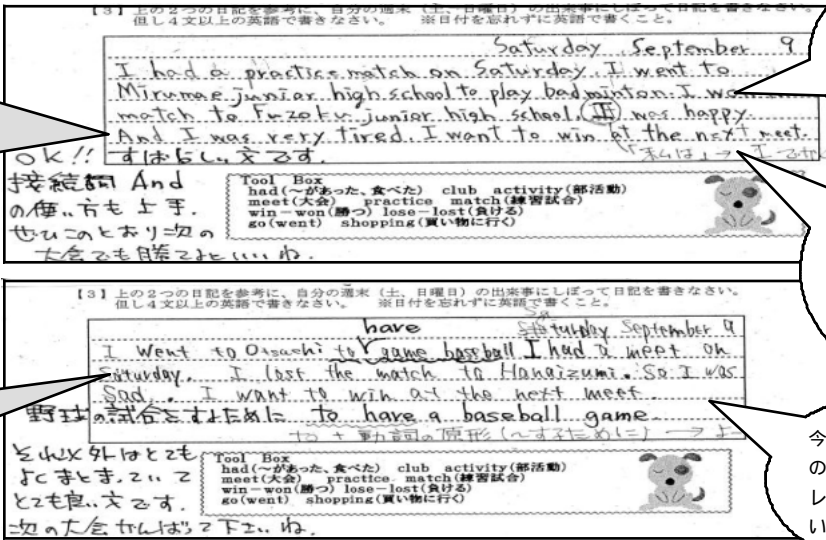
andは「そして」の意味もあるから使って書きました。気持ちを表す文も書きました。

Gアップシートの部活の話題が参考になりました。

課題はモデル文のアレンジや自分の気持ちを表す文を書けるようになることでした。

文をつなぐ接続詞 and や but など入れると日記がさらによい文になります。

今日の「to + 動詞の原形」で自分流アレンジをして文を書いてみましょう。




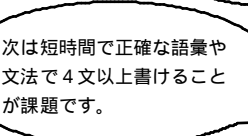
自己表現活動 の振り返り

気持ちを表す表現は書けるようになったよ。

たくさん文を書けたけどミスが多かった。もっと単語練習しないと。

接続詞使ったり、気持ちを表す文を加えてたくさんの文が書けるようになりました。

次は短時間で正確な語彙や文法で4文以上書けることが課題です。

自己表現活動 トピック「日記（週末の出来事）」に基づいた英語でのペアによるスピーチ

話題が楽しいし、どのように書けば相手に気持ちが伝わるかわかってきたよ。

友達の文の組み立て方も参考にしてみよう。



【活動の様子】

- ・「言語材料の定着度の確認」の場面では、「to + 動詞の原形」を中心に扱った。モデル文は週末明けだったので、部活動と買い物の話題にした。「to + 動詞の原形」は最近学習した内容であったため、定着度は高かった
- ・「自己表現活動」に入る前に、前回の課題を確認し、文をつなぐ接続詞やGアップシートのモデル文における論の展開の工夫について触れた。生徒はそれを生かし、前の名詞に説明を加えたり、接続詞 and や so を用いて論を展開したり、自分の気持ちを表す文を加えたりして書くことができた
- ・生徒の日記を添削すると、論の展開には工夫がみられるものが多く、たくさんの文を書いていた。しかし、書きたかった内容はわかるものの文法や語彙に誤りが多くみられた。また、英語の基本的な語順の誤りも何名かにみられた
- ・振り返りの場面では、誤りの多くみられた「代名詞を用いて前の文を説明すること」について触れた。日記はもう一度見直させた。また、モデル文にフィードバックし、書けなかった生徒に参考にさせて、少しでも多くの文を書かせた

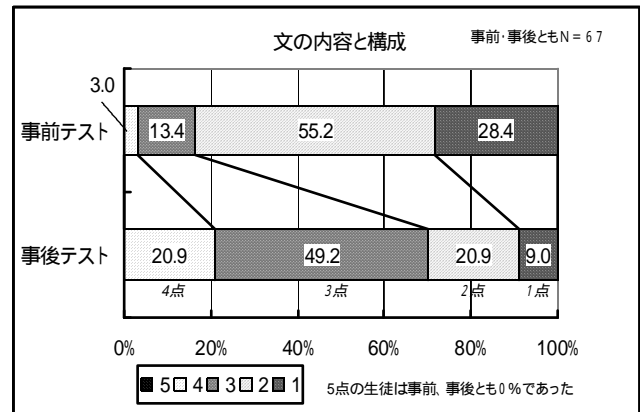
(2) 実践結果の分析と考察

授業実践をとおして手だての有効性をみるために、「まとまりのある英文を書く力」について、授業の前後に平成16年度、17年度の統一学力テストの記述問題でテストを実施し、その記述内容を9頁【表5】のまとまりのある英文についての観点ごとの採点規定に基づき、記述内容の質的変容について分析し、考察を行った。記述問題は事前テストでは「私たちの学校」、事後テスト「私の好きな物(人)」というトピックに基づき、3文以上でまとまりのある英文を書くといった内容であった。また、その結果をt検定によって比較し、育成状況をとらえた。さらに、平成16、17年度の統一学力テストの岩手県の結果とも比較を行った。

ア まとまりのある英文を書く力の育成状況

【図4】と14頁の【図5】は、あるトピックに基づいて自分の気持ちや意見をもとに、まとまりのある英文を書く問題において「文の内容と構成」、「文法や語彙力」の二つの観点における力の変容を示したものである。また、それぞれの観点から全生徒の変容状況をみたのが次頁の【表6】である。さらに、事前と事後テストにおける生徒の記述内容例と観点別にみた点数を【資料3】と15頁の【資料4】に示した。

「文の内容と構成」における力の変容を【図4】で見ると、事前テストでは2点の生徒が55.2%と半数を超えていた。1点の生徒も28.4%であり、下位層に8割以上の生徒が集中していた。2点の生徒の記述をみると【資料3】の生徒Aの記述内容にもあるように、ほとんどの生徒が Our school is ~ で書き始めるという条件に従って書いているが、「私たちの学校は北陵中学校です」や「私たちの学校は大きいです」といったトピック



【図4】 観点「文の内容と構成」における力の変容状況

や条件に即した文が1文のみ書かれている解答が多かった。これは学校を紹介したいのだが、学校名や大きさを述べたあとにどのような文を続けて書けばよいのか、分からなかったことが原因として考えられる。事後テストでは5点の生徒はいなかったが、3点の生徒は13.4%から49.2%に、4点の生徒も3.0%から20.9%に増えた。次頁の【表6】の生徒の変容状況をみると、

【資料3】 事前事後テストにおける生徒の記述内容例と「文の内容と構成」からみた点数

	事前テストの記述内容	点数	事後テストの記述内容	点数
生徒A	Our school is Hokuryo. I school is club. * 2文目は意味が通じる文ではないので、1文目のみトピックに即した文として採点した	2	I like baseball very much. I'm a baseball player. I play baseball every day. * 論の展開は意識されず、箇条書きになっている	3
生徒B	Our school is big. Our school is Hokuryo. Our school is in Takizawa. * 論の展開は意識されず、箇条書きになっている	3	I like book. Because it's very fun. So I read a book every day. I have many books. * 論の展開に工夫がみられる。接続詞の使い方にやや不自然さがみられる	4
生徒C	Our school is * トピックに即して文を書けない	1	I like badminton. I played badminton. Badminton is very hard. * 論の展開は意識されず、箇条書きになっている	3

【表6】観点「文の内容と構成」、「文法や語彙」における生徒の変容状況

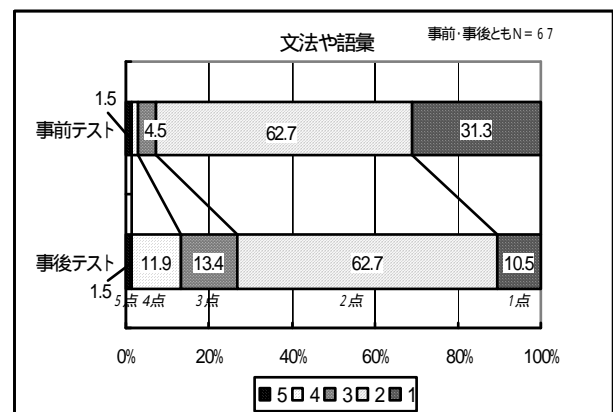
文の内容と構成								文法や語彙							
2年生 N=67 (単位:人)		事 後						2年生 N=67 (単位:人)		事 後					
		5	4	3	2	1	計			5	4	3	2	1	計
事	5	0	0	0	0	0	0	事	5	1	0	0	0	0	1
	4	0	2	0	0	0	2		4	0	1	0	0	0	1
	3	0	4	5	0	0	9		3	0	1	1	1	0	3
	2	0	6	23	8	0	37		2	0	5	5	3	2	4
前	1	0	2	5	6	6	19	前	1	0	1	3	9	7	20
	計	0	14	33	14	6	67		計	1	8	9	4	2	7

・各表の網掛けの数字がプラス変容の人数である

・事前、事後テストの1～5は9頁【表5】の採点規定による点数である

2点から3点になった生徒は23人、3点から4点になった生徒は4人であった。3点の生徒の記述内容を見ると、前頁の【資料3】の生徒Aや生徒Cのように、ほとんどの生徒が箇条書きのような形であったが、3文以上で自分の好きなものや人について書くことができていた。4点以上の生徒の記述内容には生徒Bのように代名詞を用いて事実に簡単な説明を加えたり、不自然さはあるが、so や because のような接続詞を用いるなど論の展開を工夫する記述がみられた。

次に「文法や語彙力」における力の変容を【図5】からみると、事前テストでは2点の生徒が62.7%と圧倒的に多かった。また、1点の生徒も31.3%おり、下位層に全体の9割以上の生徒が集中していた。2点の生徒の記述内容を見ると次頁の【資料4】の生徒Dのように、書きたかった内容は理解できるものの interesting のような比較的つづりの長い語彙に誤りがみられた。また、生徒Eの記述のように「私たちの学校は楽しいです」と書きたかったのだが、形容詞の fun が書けない、または enjoy という動詞の使い方が理解できていない生徒も多かった。さらに1点の生徒の記述内容を見ると生徒Fのように、英語の基本的な語順が理解できていない生徒がほとんどであった。事後テストでは、1点の生徒が31.3%から10.5%に減った。また、上位層をみると4点の生徒が1.5%から11.9%に、3点の生徒が4.5%から13.4%に増えた。【表6】の生徒の変容状況を見ると、プラス変容の生徒は24人であった。しかし、【図5】からもわかるように事後テストでは2点以下の下位層の生徒が7割以上いたことから全体としては「文法や語彙」の力を十分に育成できなかった。生徒の記述内容を見ると、次頁の【資料4】の3人の生徒の記述内容からもわかるように、ほとんどの生徒が条件に従って I like volleyball. のように正しい語彙を用いて、自分の好きなものや人について書くことができていた。しかし、そのあとに続く文の文法や語彙にいくつかの誤りがみられた。2点の生徒の記述内容を見ると、生徒Eのように語彙に誤りはないが、be 動詞などの基本的な文法の誤りがみられたり、生徒Fのように書きたかった内容はわかるものの、中学校既習の文法や語彙を用いて文を書こうとしているが定着度が低い記述が多かった。一方、4点の生徒



【図5】観点「文法や語彙」における力の変容状況

【資料4】事前事後テストにおける生徒の記述内容例と「文法や語彙」からみた点数

	事前テストの記述内容	点数	事後テストの記述内容	点数
生徒D	Our school is Hokuryo. Many students happy and intesting. *下線部が誤り。書きたかった内容はわかるが、 文法や語彙に誤りがあり、定着度は低い	2	I like volleyball. I play volleyball every day. It's very interesting.	4
生徒E	Our school is Hokuryo. Our school is enjoy. *下線部が誤り。書きたかった内容はわかるが 全体的に文法や語彙の定着度は低い	2	I like handball. Because handball fun. I very happy. *下線部が誤り。because の使い方、代名詞やbe 動詞の理解度が低く、誤りがみられる	2
生徒F	Our school is please tell you. *文全体が誤りで、主語+動詞+補語のような 英語の基本的な文構造が理解できていない	1	I like basketball. Because intrestng. But I play club is bollyball. *下線部が誤り。書きたかった内容はわかるが、 文法や語彙に誤りがあり、定着度は低い	2

の記述内容をみると、生徒Dのように文のバリエーションは豊富ではないが、どの文にも中学校既習の語彙や文法を適切に用いてトピックに基づいたまとまりのある英文を書くことができていた。

このように、力の変容がみられたのは以下の理由からと考えられる。

「Gアップシート」を活用した自己表現活動において、言語材料の定着度を確認する過程ではモデル文の論の展開にも注目させて問題に取り組ませた。そのことにより生徒はトピックに基づいてまとまりのある英文を書く際にはどのような表現が使われ、どんな文の組み立て方で書かれているかということ意識して問題に取り組むようになった。

トピックに基づいてまとまりのある英文を書く過程では、モデル文を参考にさせて書かせることにより、事実だけではなく自分の気持ちや簡単な説明を加えて文を書くことができるようになった。また、スピーチを行うことを前提にして書かせることにより、生徒はどのように書けば自分のことが相手に伝わりやすい文になるのかということを考えて書くようになった。そしてトピックを「日記」や「夏休みの思い出」のように生徒にとって身近で興味深い話題に設定して書かせることで、過去形の動詞やトピックに関わる語彙などの言語材料に定着がみられた。【資料4】をみるとトピックが変わった事後テストで、生徒Dが interesting のようなつづりの長い語彙を書けるようになったことや生徒Eが「楽しい」を英語で fun と書けるようになったことに成果がみられた。しかし、全体的をみると「文法や語彙」の力に大きな伸びはみられなかった。自分の経験や身のまわりの情報について、自己表現活動として書かせることにより、「文法・語彙力」の定着を図った。しかし、3回の活動でそれぞれ4文を書くことができたとしても、すぐに文法や【表7】まとまりのある英文を書く力の育成状況

語彙の知識として定着するものではない。また、下位層の生徒に「文法や語彙力」を定着させるには、多くの時間を要することも考えられる。そこで、自己表現活動を長期的な活動として継続させていく必要がある。トピックに関しても、同じものを繰り返して、語彙や文法を何度も確認したり、または様々なトピックを設定して、いろいろな言語材料を使わせることで、さらに定着を図っていくことが「文法・語彙力」を高めると考える。

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	N=67	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差		t値	有意差
まとまりのある英文を書く力	1.9	0.71	2.8	0.87	0.58	9.29	*
「文法や語彙」における力	1.8	0.72	2.3	0.9	0.52	5.28	*

(注) 1 事前テストは9月4日、事後テストは9月20日、22日に実施した
 2 有意差の欄の*は、t検定において、有意水準5%で有意差があることを示している
 3 設問は1問で、文の内容と構成、文法や語彙のそれぞれの観点で各5点とした。
 4 Nは総数を表す
 5 t検定に用いた公式は、次のとおりである

$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2}{n-1} - 2rS_1S_2}}$$

\bar{X}_1 と \bar{X}_2 は事前と事後テストの平均点、
 S_1 と S_2 は事前と事後テストの標準偏差、
 r は相関係数、 n は人数を表す

自己表現活動の振り返りの過程では、「Gアップシート」のモデル文にフィードバックして、接続詞の使い方や事実に簡単な説明を加える文、気持ちを表す文に使われる形容詞などについて全体で確認した。そのことにより生徒は自分の書いた英文を、スピーチの前にもう一度見直し、自分の課題に気付くことができた。そして、わからなかった表現や書けなかった語彙などを把握させ、次の自己表現活動に生かすように指導した。

このように、自己表現活動に「Gアップシート」を活用することで、「文法や語彙」の力に課題は残ったが、わずかながらプラス変容がみられた。また、「文の内容と構成」の力は高まったので、「まとまりのある英文を書く力」はおおむね育成されたと考える。

前頁の【表7】は「まとまりのある英文を書く力」を「文の内容と構成」、「文法や語彙」の二つの観点に分け、書く力の育成状況についてt検定での結果を表したものである。この結果から有意差が認められた。

イ 統一学力テストにおける岩手県の過去の結果との比較

事前、事後テストには平成16年度と17年度の統一学力テストの記述問題を使ったので、そのテストが行われた年の岩手県の中学校2年生の結果とも比較した。それぞれのテストでは、トピックに基づき、まとまりのある英文を書く問題のみを扱い、1題だけ出題したので無回答の生徒はほとんどいなかった。【表8】はそれぞれの年の統一学力テストにおける正答率とその差を比較した結果をまとめたものである。この問題には、1つのテーマにそって文法や語彙に多少誤りがあったとしても3文以上でまとまった内容の英語が書けるかというねらいがある。その正答率の差を比べると、平成16年度のテストでは約8ポイントの差で北陵中の生徒が岩手県の正答率を上回っていた。そして事後テストに使った平成17年度の正答率の差をみると、正答率を約25ポイントの差で上回り、前年度に比べて約17ポイントの伸びがみられた。

このことから、「まとまりのある英文を書く力」はおおむね育成されたと考える。

【表8】過去の統一学力テストの正答率と県の結果との比較

	事前テスト（H16） の正答率	事後テスト（H17） の正答率	差
H18 北陵中	19.4%	56.7%	
岩手県	11.1%	31.7%	
県平均との差	+8.3	+25.0	+16.7

4 中学校第2学年英語科における「書く力」を高めるための研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア まとまりのある英文を書く自己表現活動の前に、「Gアップシート」を活用し、トピックにかかわる言語材料の定着度を確認することにより、書くことの自己表現活動に生かすことができた。

イ 生徒にとって身近で興味深いトピックが設定された「Gアップシート」をまとまりのある英文を書く自己表現活動に活用することにより、トピックにかかわる語彙の定着がみられた。

ウ まとまりのある英文を書く自己表現活動において、「Gアップシート」のトピックにかかわるモデル文を基本的な文章の組み立て方として参考にさせたことにより、接続詞や事実に説明を加える文、気持ちを表す文を取り入れながら論の展開を工夫する力が身に付いた。

エ 振り返りの過程に「Gアップシート」を活用して、再度モデル文に触れ、トピックにかかわる表現について繰り返し確認したことで、自分の課題に気付かせることができた。

オ スピーチを行うことを前提として、まとまりのある英文を書かせることで、どのように伝えれば相手は理解しやすいかということを考えて文を構成する力が身に付いた。

(2) 課題

ア 「Gアップシート」を活用した自己表現活動を、普通の授業の中に意図的に取り入れて行ったが、最初は時間不足の時もあった。そのために、短時間で効果的に取り組めるように、シートの内容や指導方法を検討する必要がある。

イ 自分の経験や身のまわりの情報について、自己表現活動をとおして書かせることにより、「文法・語彙力」の定着を図ったが、短時間では十分に定着できなかった。そのために、トピックを同じものを繰り返したり、様々なものを設定し、より多くの言語材料を使わせ、長期的な活動として継続していく必要がある。

ウ 実現状況の把握について、本研究の授業実践では、自己表現活動を生徒自身だけで行うにはまだ十分に力が身に付いていないと判断し、教師が実現状況を把握して、その後の指導に役立てるようにした。「Gアップシート」は生徒がシートに取り組むことで、生徒自身で実現状況を把握できることをねらいの一つとしている。今後は授業以外での「Gアップシート」の活用場面も考えられるので、生徒自身で実現状況を把握できるように工夫を取り入れる必要がある。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、授業において「Gアップシート」を活用することとおして、書く力を高めるための学習指導の在り方を明らかにし、中学校第2学年英語科の「書くこと」領域の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説が妥当であったことが確かめられた。なお、成果として次のことが得られた。

(1) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための基本構想

中学校第2学年英語科における書く力を高めるための学習指導に関する基本的な考え方や書く力を高めるための「Gアップシート」を活用した学習指導の在り方と「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた学習指導について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想に基づき、手だての試案作成の留意点を明らかにして、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案を作成した。自己表現活動における言語材料の定着度の確認の過程、トピックに基づいたまとまりのある英文を書く自己表現活動の過程、スピーチとして発表する自己表現活動の過程の「Gアップシート」の活用の仕方について示すことができた。

(3) 実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づいた授業実践により、「Gアップシート」を活用した学習活動を取り入れた手だての試案が、生徒の書く力を高める上で効果があることが分かった。また、実践結果の分析と考察により、まとまりのある英文を書く力の育成が認められ、手だての試案は有効であることが確かめられた。

(4) 中学校第2学年英語科における書く力を高めるための研究のまとめ

中学校第2学年英語科における書く力を高めるための学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後さらに生かすための課題として次のようなことが考えられる。

(1) 「Gアップシート」の授業以外での活用方法を検討すること。

(2) 下位層の生徒を支援するために、実態に応じた具体的な手だてを考えていくこと。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝申し上げます、結びのことばといたします。

【参考文献】

小室俊明編著(2001),『英語ライティング論』, 河源社

佐野正之編著(2005),『はじめてのアクションリサーチ』, 大修館書店

田中知聡、田中武夫著(2005),『自己表現活動を取り入れた英語授業』, 大修館書店

平田和人編(2003),『中学校英語絶対の方法と実際』, 明治図書

J A C E T 教育問題研究会編(2005),『新英語科教育の基礎と実践』, 三修社

【参考Webページ】

授業と連動した言語運用能力テスト - 定期テストにおける自由英作文 - (2006),

<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/downloadfr1/htm/jed52078.htm>

補充資料

目次

【補充資料1】

まとまりのある英文を書く力の育成状況を見る事前事後テスト・・・・・・・・資1

【補充資料2 - 1】

単元「Let's Read 1」の指導展開案(1)・・・・・・・・資2

【補充資料2 - 2】

単元「Let's Read 1」の指導展開案(2)・・・・・・・・資3

【補充資料2 - 3】

単元「Let's Read 1」の指導展開案(3)・・・・・・・・資4

【補充資料2 - 4】

単元「Let's Read 1」の指導展開案(4)・・・・・・・・資5

【補充資料2 - 5】

単元「Multi Plus 2」の指導展開案(1)・・・・・・・・資6

【補充資料2 - 6】

単元「Multi Plus 2」の指導展開案(2)・・・・・・・・資7

【補充資料3 - 1】

Gアップシート(1)(「Let's Read 1」1・2時間目に使用)・・・・・・・・資8

【補充資料3 - 2】

Gアップシート(2)(「Let's Read 1」3・4時間目に使用)・・・・・・・・資9

【補充資料3 - 3】

Gアップシート(3)(「Multi Plus 2」1時間目に使用)・・・・・・・・資10

【補充資料3 - 4】

Gアップシート(4)(「Multi Plus 2」1時間目に使用)・・・・・・・・資11

【補充資料3 - 5】

Gアップシート(5)(「Multi Plus 2」1・2時間目に使用)・・・・・・・・資12

【補充資料4 - 1】

ワークシート(1)(「Let's Read 1」1時間目に使用)・・・・・・・・資13

【補充資料4 - 2】

ワークシート(2)(「Let's Read 1」2時間目に使用)・・・・・・・・資14

【補充資料4 - 3】

ワークシート(3)(「Let's Read 1」3時間目に使用)・・・・・・・・資15

【補充資料4 - 4】

ワークシート(4)(「Let's Read 1」4時間目に使用)・・・・・・・・資16

【補充資料4 - 5】

ワークシート(5)(「Multi Plus 2」1時間目に使用)・・・・・・・・資17

【補充資料1】まとまりのある英文を書く力の育成状況を見る事前・事後テスト

事前テスト

盛岡市立北陵中学校 2年 組 番 氏名 _____

知り合いの外国人に“Please tell me about your school.”と、あなたの学校について聞かれました。あなたならどう答えますか。

次の指示に従って書きなさい。

- (1) 最初の文は **Our school is** で書き始めること。
- (2) 3文以上の英語で書くこと。

事後テスト

盛岡市立北陵中学校 2年 組 番 氏名 _____

英語の授業で、自分の好きなもの（スポーツ・食べ物）や人について紹介することになりました。あなたの好きなものや人を1つ〔1人〕だけ取り上げて、次の指示に従って英語で書きなさい。

- ・最初の文は、**I like**で書き始めること。
- ・取り上げたものや人について、3文以上で書くこと。

【補充資料2 - 】単元「Let's Read 1」の指導展開案（1）

単元「Let's Read 1 A Magic Box」の指導展開案（1 / 5時間）

- (1) 目標
- ・物語を読んで、場面展開を読み取ることができる
 - ・「昨日の日記」というトピックに基づき、自分について英語で書いて表現できる。

(2) 評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cの生徒への支援
	A	B	
ワークシートへの記述 (場面の展開や登場人物の心情)	場面や状況を把握し、登場人物の心情を適切に読み取ることができる。	物語を読んで、場面の展開や登場人物の心情を読み取ることができる。	ピクチャーカードなどを用いて場面や登場人物について把握させる。
自己表現活動	トピックに基づき事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な言語材料を用いて表現できる。	トピックに基づき自分で書きたいことや相手に伝えたいことを英語で表現できる。	言語材料の確認の場面で使ったGアップシートを参考に、1文でも多く書かせるように支援する。

(3) 展開（1 / 5時間）

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (はGアップシートの活用)
導入 (10)	<p>1 帯学習（言語材料の定着度の確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己表現活動のトピックに関わる評価問題に取り組み。(Gアップシート) ・答え合わせをする。 <p>2 本時の学習課題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A Magic Box 32ページの読んで、物語のあらすじを理解しよう。 「昨日の日記」というテーマで、英語で書いて表現しよう。</p> </div>	<p>生徒が日記を書くために必要な言語材料に焦点を置き、短時間で確認させる。</p> <p>自分の答えを確認させるとともに、日記を書くための言語材料や表現例について考えさせる。</p>
展開 (30)	<p>3 本文の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を閉じさせ、ピクチャーカードを見ながらCDを聞き、内容について考える。 <p>4 新出単語の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語の発音練習（全体） ・新出語句の意味の確認 <p>5 本文の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書32ページの音読練習（全体） <p>6 本文の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの観点をもとに内容について考える。(ワークシート) ・内容について確認する <p>7 文法や表現の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の重要文法や表現を確認し、ノートにまとめる。 <p>8 演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文のあらすじを過去のこととしてとらえ、32ページの場面にかかわる演習を行う。(ワークシート) ・答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況、登場人物について考えさせながらCDを聞くように指示をする。 ・フラッシュカードを用いて、CDや教師のあとに続かせて大きな声で発音させる。 ・教科書に示してある単語の意味を確認させる。 ・教師のあとに続かせて、大きな声で読ませる。 ・内容を考えさせながら音読させる。 ・場面や状況、登場人物の心情についてよく考えさせて取り組ませる。 ・新出の慣用句などを中心にどのような表現であるか生徒に確認しながらノートにまとめる。 ・老婆と夫婦の出会いの場面を過去のこととしてとらえさせ、動詞の語形変化を中心とした演習に取り組ませる。
終末 (10)	<p>9 自己表現活動（書くこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昨日の日記」というトピックについて英語でまとまりのある英文を書く。(Gアップシート 4連文以上) 	<p>導入の場面で扱った言語材料も参考にさせながら、できるだけ多くの文を書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去形の動詞に注意させながら書かせる。 ・事実だけではなく、自分の気持ちや考えも英語で表現させる。 <p>スピーチをすることを目標とさせ、相手が理解しやすい文のくみだて方について考えさせながら書かせる。</p> <p>机間巡視をしながら、書けない生徒に支援し、モデル文を参考にしながら、1文でも多く文を書かせる。</p>

【補充資料 2 - 】単元「Let's Read 1」の指導展開案（2）

単元「Let's Read 1 A Magic Box」の指導展開案（2 / 5 時間）

- (1) 目標
 ・物語を読んで、場面展開を読み取ることができる
 ・「昨日の日記」というトピックに基づき、自分について書いた英文をスピーチとして発表できる。
- (2) 評価規準

評価場面	具体的評価規準		Cへの生徒への支援
	A	B	
ワークシートへの記述 (場面の展開や登場人物の心情)	場面や状況を把握し、登場人物の心情を適切に読み取ることができる。	物語を読んで、場面の展開や登場人物の心情を読み取ることができる。	ピクチャーカードなどを用いて場面や登場人物について把握させる。
トピックに基づき自分の書いた英文をスピーチとして発表する。	聞き手に伝わるように、大きな声で感情をこめてスピーチすることができる。	自分のことをスピーチをとおして、聞き手に伝えることができる。	教師が机間巡視をしながら、スピーチすることを支援する。

(3) 展開（2 / 5 時間）

	学習活動	指導上の留意点 (Gアップシートの活用)
導入 (5)	1 帯学習（スピーチの練習） 「昨日の日記」についてスピーチの練習に取り組む。 2 本時の学習課題を確認する A Magic Box 33ページの読んで、物語のあらすじを理解しよう。 「昨日の日記」というテーマで英語でスピーチしよう。	・聞き手に伝わりやすい声の大きさについて考えさせるとともに、感情を込めて練習させる。 ・机間巡視しながら、読めない生徒がいないか確認する。
展開 (30)	3 自己表現活動（書くこと）の振り返り ・自分の書いた英文の見直しをする。 4 自己表現活動（スピーチ） ・「昨日の日記」というテーマのもと自分の書いた英語をスピーチとして発表する。 （ペア...となり同士で発表しあう） 5 前時の復習 ・教科書の音読をする ・大まかな内容を口頭にて確認する。 6 本文の提示 ・教科書を開けたままCDを聞き、内容について考える。 7 新出単語の確認 ・新出単語の発音練習（全体） ・新出語句の意味の確認 8 本文の音読 ・教科書33ページの音読練習（全体） 9 本文の内容理解 ・読み取りの観点をもとに内容について考える。（ワークシート） ・内容について確認する	スピーチの前に見直しをさせ、自分の課題に気付かせる。 必要に応じて、「言語材料の定着度の確認」の時に使用したGアップシートを活用して文法や語彙、トピックに関わる表現を確認する。 ・聞き手に伝わるように大きな声で発表させる。 ・スピーチを聞いたあとに感想やもっと知りたかったことなどを発表者に伝えるに指示する。 ・生徒を数名指名し、簡単な質問を口頭にて行い、前回のおおまかなあらすじを確認しておく。 ・本文の内容を考えさせながらCDを聞くように指示をする。 ・フラッシュカードを用いて、CDや教師のあとに続かせて大きな声で発音させる。 ・教科書に示してある単語の意味を確認させる。 ・教師のあとに続かせて、大きな声で読ませる。 ・内容を考えさせながら音読させる。 ・場面や状況、登場人物の心情についてよく考えさせて取り組ませる。
終末 (15)	10 文法や表現の確認 ・本文中の重要文法や表現を確認し、ノートにまとめる。 11 演習 ・本文32～33ページのあらすじを自分が夫婦になったつもりで日記を書いてみる。 ・答え合わせをする。	・新出の慣用句などを中心にどのような表現であるか生徒に確認しながらノートにまとめる。 ・32～33ページの場面を自分が夫婦になったつもりで老婆との出会いやマジックボックスをもらったことを日記形式で日本語を与え、英語で表現させる。 ・教科書を参考にさせながら、動詞の語形変化に注意させる。

【補充資料 2 - 】単元「Let's Read 1」の指導展開案（3）

単元「Let's Read 1 A Magic Box」の指導展開案（3 / 5 時間）

（1）目標 ・物語を読んで、場面展開を読み取ることができる

・「日記（週末の出来事）」というトピックに基づき、自分について英語で書いて表現できる。

（2）評価規準

評価場面	具体の評価規準		Cへの生徒への支援
	A	B	
ワークシートへの記述 (場面の展開や登場人物の心情)	場面や状況を把握し、登場人物の心情を適切に読み取ることができる。	物語を読んで、場面の展開や登場人物の心情を読み取ることができる。	ピクチャーカードなどを用いて場面や登場人物について把握させる。
自己表現活動	トピックに基づき事実や自分の考え、気持ちなどを適切な言語材料を用いて表現できる。	トピックに基づき自分で書きたいことや相手に伝えたいことを英語で表現できる。	言語材料の確認の場面で使ったGアップシートを参考に、1文でも多く書かせるように支援する。

（3）展開（3 / 5 時間）

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (はGアップシートの活用)
導入 (10)	<p>1 帯学習（言語材料の定着度の確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己表現活動のトピックに関わる評価問題に取り組む。(Gアップシート) 答え合わせをする。 <p>2 本時の学習課題を確認する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A Magic Box 34ページの読んで、物語のあらすじを理解しよう。 「日記（週末の出来事）」というテーマで、英語で書いて紹介しよう。</p>	<p>日記を書くために、必要な言語材料に焦点を置き短時間で確認させる。</p> <p>自分の答えを確認させるとともに、生徒に自分の週末の出来事について思い出させ、日記を書くための言語材料や表現例について考えさせる。</p>
展開 (30)	<p>3 前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を開かせたまま、P32～33までの本文をCDで聞く。 おおまか内容を口頭で確認する。 <p>4 本文の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を開けたままCDを聞き、内容について考える。 <p>5 新出単語の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 新出単語の発音練習（全体） 新出語句の意味の確認 <p>6 本文の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書34ページの音読練習（全体） <p>7 本文の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み取りの観点をもとに内容について考える。(ワークシート) 内容について確認する <p>8 文法や表現の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文中の重要文法や表現を確認し、ノートにまとめる。 <p>9 演習</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文のあらすじを過去のこととしてとらえ、34ページの場面にかかわる演習を行う (ワークシート) 答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を数名指名し、前時（33ページ）の内容について簡単な質問を口頭で行い、あらすじを確認する。 本文の内容を考えさせながらCDを聞くように指示をする。 フラッシュカードを用いて、CDや教師のあとに続かせて大きな声で発音させる。 教科書に示してある単語の意味を確認させる。 教師のあとに続かせて、大きな声で読ませる。 内容を考えさせながら音読させる。 場面や状況、登場人物の心情についてよく考えさせて取り組ませる。 新出の慣用句などを中心にどのような表現であるか生徒に確認しながらノートにまとめる。 夫婦が家に帰り、マジックボックスを使った場面を過去のこととしてとらえさせ、動詞の語形変化を中心とした演習に取り組ませる。
終末 (10)	<p>9 自己表現活動（書くこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「日記（週末の出来事）」というトピックについて英語でまとまりのある英文を書く。(Gアップシート 4連文以上) 	<p>導入の場面で扱った言語材料も参考にさせながら、できるだけ多くの文を書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実だけではなく、自分の気持ちや考えも英語で表現させる。 スピーチをすることを目標とさせ、相手が理解しやすい文のくみたて方について考えさせながら書かせる。 机間巡視をしながら、書けない生徒を支援し、モデル文を参考にさせながら、1文でも多く文を書かせる。

【補充資料2 - 】単元「Let's Read 1」の指導展開案（4）

単元「Let's Read 1 A Magic Box」の指導展開案（4 / 5時間）

- (1) 目標
- ・物語を読んで場面展開を読み取ることができる
 - ・「日記（週末の出来事）」というトピックに基づき、自分について書いた英文をスピーチとして発表できる。

(2) 評価規準

評価場面	具体的評価規準		Cへの生徒への支援
	A	B	
ワークシートへの記述 (場面の展開や登場人物の心情)	場面や状況を把握し、登場人物の心情を適切に読み取ることができる。	物語を読んで、場面の展開や登場人物の心情を読み取ることができる。	ピクチャーカードなどを用いて場面や登場人物について把握させる。
トピックに基づき自分の書いた英文をスピーチとして発表する。	聞き手に伝わるように、大きな声で感情をこめてスピーチすることができる。	自分のことをスピーチをおして、聞き手に伝えることができる。	教師が机間巡視をしながら、スピーチすることを支援する。

(3) 展開（4 / 5時間）

	学習活動	指導上の留意点 (Gアップシートの活用)
導入 (5)	1 帯学習（スピーチの練習） 「日記（週末の出来事）」についてスピーチの練習に取り組む。 2 本時の学習課題を確認する A Magic Box 35ページの読んで、物語のあらすじを理解しよう。 「日記（週末の出来事）」というテーマで英語でスピーチしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に伝わりやすい声の大きさについて考えさせ、感情を込めて練習させる。 ・机間巡視しながら、読めない生徒がいらないか確認する。
展開 (30)	3 自己表現活動（書くこと）の振り返り ・自分の書いた英文の見直しをする。 4 自己表現活動（スピーチ） ・「日記（週末の出来事）」というテーマのもと自分の書いた英語をスピーチとして発表する。（ペア...となり同士で発表しあう） 5 前時の復習 ・教科書を開けさせたまま、P 32～34までの本文をCDで聞く。 ・大まかな内容を口頭にて確認する。 6 本文の提示 ・教科書を開けたままCDを聞き、内容について考える。 7 新出単語の確認 ・新出単語の発音練習（全体） ・新出語句の意味の確認 8 本文の音読 ・教科書35ページの音読練習（全体） 9 本文の内容理解 ・読み取りの観点をもとに内容について考える。（ワークシート） ・内容について確認するとともに、3番目の提案について英語で発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチの前に見直しをさせ、自分の課題に気付かせる。 ・必要に応じて、「言語材料の定着度の確認」の時に使用したGアップシートを活用して文法や語彙、表現をもう一度確認する。 ・聞き手に伝わるように大きな声で発表させる。 ・スピーチを聞いたあとに感想やもっと知りたかったことなどを発表者に伝えるに指示する。 ・生徒を数名指名し、これまでの内容について簡単な質問を口頭にて行い、あらすじを確認しておく。 ・本文の内容を考えさせながらCDを聞くように指示をする。 ・3番目の提案について考えさせながら聞くように指示する。 ・フラッシュカードを用いて、CDや教師のあとに続けて大きな声で発音させる。 ・教科書に示してある単語の意味を確認させる。 ・教師のあとに続けて、大きな声で読ませる。 ・内容を考えさせながら音読させる。 ・場面や状況、登場人物の心情についてよく考えさせて取り組ませる。 ・3番目の提案の例をいくつか示し、生徒に自由に考えさせ、発表させる。
終末 (15)	10 文法や表現の確認 ・本文中の重要文法や表現を確認し、ノートにまとめる。 11 演習 ・教科書36ページのReviewに取り組む。 ・答え合わせをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の慣用句などを中心にどのような表現であるか生徒に確認しながらノートにまとめる。 ・問題に関しては過去形の表現に注意させる。 ・答えだけを生徒に言わせるのではなく、「誰が何をした」のか文の内容を聞きながら、動詞の過去形を中心に確認する。

【補充資料2 - 】単元「Multi Plus 2」の指導展開案（1）

単元「Multi Plus 2 わたしの夏休み」の指導展開案（1 / 2時間）

- (1) 目標 ・「夏休みの思い出」というトピックに基づき、自分について英語で書いて表現できる。
 (2) 評価規準

評価場面	具体的評価規準		Cへの生徒への支援
	A	B	
自己表現活動	トピックに基づき事実や自分の考え、気持ちなどを適切な言語材料を用いて表現できる。	トピックに基づき自分で書きたいことや相手に伝えたいことを英語で表現できる。	言語材料の確認の場面で使ったGアップシートを参考に、1文でも多く書かせるように支援する。

(3) 展開（1 / 2時間）

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (はGアップシートの活用)
導入 (10)	1 帯学習（言語材料の定着度の確認） ・「夏休みの思い出」に関わる評価問題に取り組む。（Gアップシート） ・答え合わせをする。 2 本時の学習課題を確認する	生徒が夏休みに体験しそうな話題に関するモデル文の読解問題を含んだシートを活用し、言語材料の定着度を確認する。 自分の答えを確認させるとともに、夏休みの思い出を書かせるための言語材料や表現例について考えさせる。
「夏休みの思い出」というテーマで、英語で書いて紹介しよう。		
展開 (30)	3 教科書のスモールステップ Step 1 (Reading) ・新出語句の発音練習（全体） ・新出語句の意味の確認 ・夏休みの思い出のモデルとなる文の音読（全体） ・モデルとなる文の内容把握 4 スピーチのモデルの提示 ・「夏休みの思い出」にかかわるスピーチのモデル文に触れる。 5 話題の決定 ・夏休みに関わる自分が書きたい話題を簡単なワークシートに英語でいくつか書かせる。 ・ワークシートをとなり同士で交換し、スピーチとして聞いてみたい話題にマークさせ、それに関する質問を書かせる。 ・交換したシートをもとに話題を決定する。 5 教科書のスモールステップ Step 2 (Writing) 情報の整理 ・「夏休みの思い出」というトピックに基づいて自分について英語で書く前に教科書やGアップシートのモデル文を参考にしながら、自分の作文の話題にそったメモ書きを作成する。	・フラッシュカードを用いて、CDや教師のあとに続いて大きな声で発音させる。 ・内容を考えさせながら音読させる。 ・モデルとなる文の内容について、口頭で生徒に質問しながら確認する。 導入時とは別の夏休みに関する話題を盛り込んだシートを活用し、言語材料の定着度を確認しながら、いろいろな表現方法に気づかせる。 ・「どこで何をした」というような文をなるべく多く思い出させ、英語で書かせる。 Gアップシートの話題からも自分のしたことに近いものをピックアップさせて自分のことに置き換え表現させる。 ・聞いてみたい話題に関しては、日本語でよいので1つの話題になるべく3つ以上の質問を書かせる。 教科書とあわせてGアップシートを活用し、自分なりにアレンジさせながら情報を整理し、メモを完成させる。 整理できない生徒には教師が支援し、夏休みにしたことを質問しながら、教科書やGアップシートにある表現を参考にさせ、1つでも多く英文を書かせるようにする。
終末 (10)	6 自己表現活動（書くこと） ・「夏休みの思い出」というトピックについて英語でまとまりのある英文を書く。 （Gアップシート 4連文以上）	・メモを参考に、できるだけ多くの文を書かせるように指導する。 ・事実だけではなく、自分の気持ちや考えも英語で表現させる。 スピーチをすることを目標とさせ、相手が理解しやすい文のくみたて方について考えさせながら書かせる。 机間巡視をしながら、書けない生徒に支援し、モデル文を参考にさせながら、1文でも多く文を書かせる。

【補充資料 2 - 】単元 「Multi Plus 2」の指導展開案 (2)

単元 「Multi Plus 2 わたしの夏休み」の指導展開案 (2 / 2 時間)

(1) 目標 ・「夏休みの思い出」というトピックに基づき、自分について書いた英文をスピーチとして発表できる。

(2) 評価規準

評価場面	具体的評価規準		Cへの生徒への支援
	A	B	
トピックに基づき自分の書いた英文をスピーチとして発表する。	聞き手に伝わるように、大きな声で感情をこめてスピーチすることができる。	自分のことをスピーチをとおして、聞き手に伝えることができる。	教師が机間巡視をしながら、スピーチすることを支援する。

(3) 展開 (2 / 2 時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (はGアップシートの活用)
導入 (10)	1 帯学習 (スピーチの練習) ・「夏休みの思い出」についてスピーチの練習に取り組む。 2 本時の学習課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「夏休みの思い出」というテーマで、英語でスピーチをしよう </div>	・聞き手に伝わりやすい声の大きさについて考えさせるとともに、感情を込めて練習させる。 ・机間巡視しながら、読めない生徒がいないか確認する。
展開 (20)	3 自己表現活動 (書くこと)の振り返り ・自分の書いた英文の見直しをする。 4 自己表現活動 (スピーチ) ・「夏休みの思い出」というテーマのもと自分の書いた英文をスピーチとして発表する。 (グループ...班ごとに発表させる) ・聞いている生徒はスピーチの聞いての感想などをコメント用紙に書く。	スピーチの前に見直しをさせ、自分の課題に気付かせる。 必要に応じて、前時に使用したGアップシートを活用して、文法や語彙、表現をもう一度確認する。 ・聞き手に伝わるように大きな声で発表させる。 ・聞いている生徒を発表者に注目させ、内容について聞き取るように指示をする。 ・スピーチを聞いている生徒には感想やもっと聞いてみたいことなどをコメント用紙に書かせ、発表者に渡すように指示する。
終末 (20)	5 スピーチの文の清書 (文化祭の教科展示作品)	・自分の書いたスピーチの原稿をもとに、「夏休みの思い出」というテーマで清書させる ・イラストなども書かせて、自由に工夫させながら活動させる。 ・コメント用紙をみてもっと書きたいことがある生徒や思うように書けない生徒を支援する。

Gアップシート 「日記」
一日の流れにそって日記を書いてみよう

年 組 番 氏名

【1】 次の文は慎が自分の一日の出来事を日記にして英語でスピーチする時に書いた文です。
読んで、スピーチの内容に関して日本語でまとめた文の空所に適切なことばを書きなさい。

Tuesday, September 5

I got up at six. I had breakfast at seven. I got to school at eight. We had four classes in the morning. I like English very much. We had lunch at twelve fifty. I played soccer after school. I was very tired. I watched Doraemon on TV before dinner. It was very interesting. I went to bed at eleven.



注 Doraemon(ドラえもん)

慎は6時に()で、7時に()。そして学校には8時に()。午前中は()。慎は英語がとても好きです。慎たちは12時50分に()。そして慎は放課後に()。慎はとても()。夕飯の()に慎はテレビでドラえもんを()。慎にとってそれはとても()ようです。そして慎は11時に()。

【2】 次の日本語にあう英文になるようにカッコ内に1語、英語を入れなさい。

(1) 私は歩いて学校に行きました。

I () () school.

(2) 私は新しいCDを買うために店に行きました。

I () to the store () () a new CD.

(3) 夕食の後、私は音楽を聞きました

I () to music () dinner.

(4) 私はとてもうれしかった。(幸せだった)

I () very ().

【3】 「昨日の日記」を英語で書いてみよう

(日付を書くこと。4文以上の英語で書くこと)

Blank writing area with horizontal dashed lines for writing the diary entry.

Gアップシート 「日記(休日編)」
ある話題にしぼって日記を書いてみよう

2年 組 番 氏名

【1】 次の文はケンの「休日の日記」です。読んで、あとの問いに答えなさい。

Sunday, September 10

I went to school to play tennis. I practiced hard with my friends.
I () () win at the next meet.

注 win(勝つ) meet(大会)

- (1) 下線部 の文を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部 が「私は次の大会で勝ちたいです」となるようにカッコ内に英語を入れなさい。
() ()

【2】 次の文はユミの「休日の日記」です。読んで、あとの問いに答えなさい。

Saturday, September 9

I went to the store (buy) a new CD. I like Apple Range.
I (listen) to it after dinner. I was very happy. I (going /
go / to the concert / am / to / next month).


注 Apple Range(アップルレンジ) 架空のグループ名
concert(コンサート)



- (1) 下線部 が「CDを買うために」の意味になるようにカッコ内の語を適切な形になおしなさい。
- (2) カッコ の語を適切な形になおしなさい。
- (3) 下線部 が「私は来月、コンサートにいくつもりです」の意味になるように、語を並べ替えて文を完成しなさい

【3】 上の2つの日記を参考に、自分の週末(土、日曜日)の出来事にしぼって日記を書きなさい。但し4文以上の英語で書きなさい。 日付を忘れずに英語で書くこと。

Tool Box
had(~があった、食べた) club activity(部活動)
meet(大会) practice match(練習試合)
win - won(勝つ) lose - lost(負ける)
go(went) shopping(買い物に行く)



Gアップシート 「読解」
夏休みの話題に触れてみよう

次はとも子を書いた夏休みの思い出についてのスピーチの原稿です。読んで、あとの問いに答えなさい。

I'm going to talk about my summer vacation.
I went to Morioka to watch Sansa Odori with my frineds.
() the night of August 2, we watched Sansa Odori. Many
people danced and played the drums with beautiful costumes.
They () very happy.
Then we had Yakisoba. It was very good. And we played with
fireworks in the park. They were very beautiful.
I got home at ten. (want / watch / I / to / Sansa Odori) again.
Thank you.

- (注) Sansa Odori(さんさ踊り) dance(d)(踊る)
the drum(s)(太鼓) with beautiful costume (きれいな衣装を着て)
Yakisoba(やきそば) forework(s) (花火) again(再び、また)

(1) 下線部 の部分が表す意味を日本語で書きなさい。

さんさ踊りを()

(2) に入る語をとして適切なものを次から選び、記号で書きなさい。

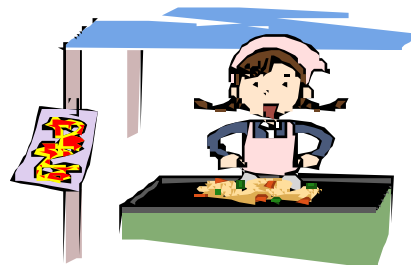
ア Of イ On ウ For エ In

(3) 下線部 が「彼らはとても幸せそうに見えた」の意味になるようにカッコ内に1語、英語を入れなさい。

They () very happy.

(4) 下線部 が「私はまた (again) さんさ踊りがみたいです」の意味になるように語を並べ替え文を完成しなさい。 againは最後に置きます。

again.



Gアップシート 「読解」
夏休みの話題に触れてみよう

次はケンジが書いた夏休みの思い出についてのスピーチの原稿です。読んで、あとの問いに答えなさい。

I'm going to talk about my summer vacation.
I am () () () the soccer club. () summer vacation, I practiced soccer every day.
We had soccer games () August 8. It was our first games, so I played hard. But we lost the games. (私はとても悲しかった).
We have the soccer meet next month. I want to win the games.
Thank you.

(注) lost (loseの過去形「負けた」) sad (悲しい)
the soccer meet (サッカーの大会) win (勝つ)



(1) 下線部 が「サッカー部の一員(メンバー)」の意味になるようにカッコ内に1語ずつ英語を入れなさい。

I am () () () the soccer club.

(2) 下線部 は「夏休みの間に」の意味になるように、カッコ内に入る適切な語を次から選び、記号で答えなさい。

ア During イ Between ウ Of エ To

(3) 下線部 が「8月8日に」の意味になるように、カッコ内に1語、英語を入れなさい。

(4) 下線部 の日本語を英語にしなさい。

(5) 次の文がスピーチの原稿の内容にあっていれば を、そうでなければxをカッコ内に書きなさい。

ア ケンジは夏休み中、毎日サッカーの練習をした。 ()

イ ケンジは試合には出れなかったので、次の大会で出たいと思っている。 ()

ウ ケンジは来週もサッカーの試合がある。 ()

Gアップシート 「私の夏休み」
夏休みの思い出を英語で書いてみよう

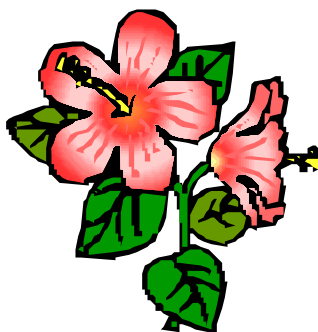
年 組 番 氏名

英語の授業で「夏休みの思い出」というテーマでスピーチを行います。今までのシートで学習したことを参考に4文以上の文で書いてみましょう。

MY SUMMER VACATION

I'm going to talk about my summer vacation.

Thank you.



GRADE 2 CLASS _____ NUMBER _____ NAME _____

【補充資料4 - 】 ワークシート(1)

Let's Read 「A Magic Box」

教科書のページ P 3 2

Grade 2

Class _____

Number _____

Name _____

1 Reading Point (P 3 2)

男と妻はどこで何をしていましたか？

老婦人は夫婦に何がほしいといましたか？また、その理由は何ですか？

その次に老婦人は何がほしいといましたか？また、その理由は何ですか？

本文の内容から、この夫婦はどんな夫婦だと思いますか？またそれはどんな理由からですか？

2 Exercises 物語をはじまりを振り返ろう

次の文は教科書 3 2 ページの本文の内容を要約したものです。

英文が下の日本語の内容にあうようにカッコ内に適語を入れなさい。

A man and his wife () working on their farm.

一人の男と妻が農場で働いていました。

Then they () an old woman. She () very thirsty

その時、彼らは一人の老婦人に会いました。彼女はとてものどがかわいておなかを
and hungry. So they () her some water and thier lunch.

すかせていました。だから彼らは水を少々とお昼ご飯をあげました。

An old woman () happy.

老婦人はうれしそうに見えました。

Grade 2 Class _____ Number _____ Name _____

1 Reading Point (P 3 3)

老婦人は水とお昼ご飯のお礼にどんなことをしましたか？

マジックボックスとはどんなものでしょうか？

マジックボックスを使ううえで気をつけなければならないことは何ですか？

本文のあらすじから、この老婦人はどのような人だと思いますか？またそれはなぜですか？

2 Exercises 物語を振り返り、日記を書こう。

教科書 32 ~ 33 ページの出来事をあなたが登場人物の夫婦になったつもりで、その日の出来事を日記にして書いてみよう。

下の日本語にあうように、英語を並べ替え、文を完成しなさい。

(were / the farm / on / we / working). _____

_____ .
(私たちは農場で働いていました)

(saw / an / we / woman / old). _____

_____ .
(私たちは一人の老婦人に会いました)

(was / thirsty / she / very / and / hungry). _____

_____ .
(彼女はのどが渇いて、おなかがすいていました)

(gave / her / the lunch / we / some water / and). _____

_____ .
(私たちは彼女に水とお昼ご飯をあげました)

(us / a magic box / gave / she) in return. _____

_____ in return.

_____ .
(彼女は私たちにお返しにマジックボックスをくれました)

【補充資料4 - 】 ワークシート(3)

Let's Read1 「A Magic Box」

教科書のページ P34

Grade2 Class _____ Number _____ Name _____

1 Reading Point (P34)

家に帰った夫婦はどんな状態でしたか。

妻が箱に向かって思わず言ってしまった願いは何でしたか？

男が思わず言ってしまった願いは何でしたか？

2つの願いごとを言ったあと2人はどんなことに気づきましたか？

のことから夫婦は次の日どうすることにしましたか？

なぜこの夫婦は のようなことを思いついたと思いますか？

2 Exercises 物語を振り返ろう

次の文は教科書34ページの本文の内容を要約したものです。

英文が下の日本語の内容にあうようにカッコ内に適語を入れなさい。

The man and his wife () home. They () very tired 男と妻は家に帰って来ました。 彼らはとても疲れておなかがすいて and hungry. They () () have a big dinner and a いました。 彼らは大きなピンのワインと共に豪華な夕飯が食べたいと思いました。 big bottle of wine. Then a big dinner and a big bottle () その時、豪華な夕飯と大きなピンが箱から出てきました。 out of the box.
--

【補充資料4 - 1】 ワークシート(4)

Let's Read1 「A Magic Box」

教科書のページ P35

Grade2 Class _____ Number _____ Name _____

1 Reading Point (P35)

夫婦が王様のところへ行ったとき、王とともにその場にいたのは誰だったか？

最初の提案はどのようなものでしたか？

2番目の提案とはどのようなものでしたか？

本文の内容から王様はどんな人物だと思いますか？またそれはなぜですか？

あなたが3人目の大臣です。マジックボックスに最後の願いを込めて英語で書きなさい。

Let's wish for _____

2 Review 物語のあらすじを振り返ろう(教科書36ページ)

本文を読んで、次の内容があてはまれば○を、違っていれば×を()に書き入れなさい。
(誰が何をした(していた)のか、よく考えて取り組むこと)

A man and his wife were working on their farm. ()

An old woman called to them and wanted some water. ()

The old woman gave them her lunch in return. ()

The old woman wanted to make a wish to get some water from the box. ()

The man and his wife got a wonderful dinner and some good wine from the box. ()

The king came to meet them with his three ministers. ()

Multi Plus2 「私の夏休み」

教科書のページ P38 ~ 39

Grade2 Class _____ Number _____ Name _____

- 1 P38 Step 覚えない語句
- grandmother _____ town _____
- near _____ fire _____
- festival _____



- 2 夏休みの話題を整理しよう。
 例にならってあなたが夏休みにしたことを英語でたくさん書いてみよう。
 (下の表の「夏休みにしたこと」の欄に英語で書きます)

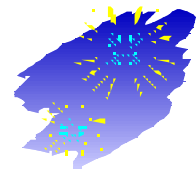


I went to Tokyo Disney Land in July.
 (私は7月に東京ディズニーランドに行きました)
 I played baseball every day in summer vacation.
 (私は夏休みに毎日野球をしました)

となりの人と交換して、友達にスピーチとして聞きたい話題に をつけてもらいます。
 その話題に関わって、聞いてみたいことを日本語でいくつか記入してもらいます。
 自分の話題を決定します。

夏休みにしたこと	私はこれが聞きたい	質問コーナー

- 3 P39 Step
 教科書の例を参考にして、あなたの夏休みについて次の表でスピーチの文に書くことを整理しよう。



だれが	
いつ	
何をした	
どうだった	